



# 研究だより

授業日：2017（平成29）年  
5月24日（水）  
発行者：教科研究担当 國廣

授業日 2017（平成29）年 5月24日（水） 5校時 第2学年2組 古屋学級  
単元名 「ひき算の仕方を考えよう」

## 授業後の研修より

授業の視点	成 果	課 題	改 善 点
① 児童実態に 応じた学習展開 の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>「問題提示から気づき」までの意欲 ◎</li> <li>「ひかれる数」「ひく数」「答え」の3つの言葉を色分けができてよかった。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たしざんでたしかめができるんだ」ということが児童が実感できていなかった。</li> <li>ただ操作だけになっていたので、計算間違いがあっても、気づけていなかった。</li> <li>「子どもたちがやりたい」という思いができていたか。</li> <li>めあて「～説明しよう」であるが、説明する時間が保障できていない。</li> <li>練習問題の難易度の差があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 「たしかめるためにはどうしたらいいかな」という発問からスタートすることで、たしざんをするための必要性をもたせる。</li> <li>→ 導入で「できそう」と思わせるための足場づくりをしていく。</li> <li>→ お金を使って、具体的場面でイメージさせる。</li> <li>→ たしかめの計算の手順は子どもたちでみつけさせていく。</li> <li>→ めあて、評価基準との学習活動の整合性をもつようにする。</li> <li>→ テンポよく授業を進めるようにしていく。</li> <li>→ 細かい配慮をしていく。</li> </ul>
② 学び合いを 深める学習形態 の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合いの雰囲気よかった◎ (頭を寄せ合う、教え合いができていて、配慮のいる子も頑張ろうとしていた。)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループトークにおいてけぼりを作らないようにする。(気遣い)</li> <li>発表の仕方を見直す。「どうですか？」は聞いてもらえないから出てくる言葉ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ グループ学習を積み上げていく。どこに入れると効果的になるかも考えて入れていく。メンバーを考えて班構成を考える。</li> <li>→ 学習規律の徹底 話す人におへそをむける。 手をあげて発表する。</li> </ul> 

### 《その他》

- ・配慮のいる児童への支援は、真っ先にいく！最後にまわしていたら、何もしないまま時間は過ぎていくだけになってしまう！
- ・ノート指導…ひとますずつ数字を書かせる。(筆算の計算の仕方)
- ・指示の出し方…明確な指示を出す。あいまい、分かりにくい指示を出さない。
- ・学習環境整備…給食台を除き、前面は必ずすっきりさせる。机上の持ち物の統一。

検証結果①児童の実態に応じた学習展開の在り方 (2)

検証結果②学び合いを深める学習形態の在り方 (3)

本時の評価指標 ( / 29人)